

カキ小屋常設化による海業の振興：加布里漁港（福岡県糸島市）

概要

- 糸島市は、福岡都市圏に位置し、圏内には250万人以上の人口を抱えている。船びき網や釣り、さし網など様々な漁業が営まれているが、冬季はシケが多く出漁が困難なことから、その対策としてカキ養殖を導入している。養殖したカキは、多くの人口を抱える利点を活かし、カキ小屋で販売することで地域活性化に繋がっている。
- 現在のカキ小屋は、仮設建築物の許可のため、継続的な営業ができないことや、設置撤去費用が毎年必要なことが課題である。また、直売所が漁港付近にないため出荷作業が漁業者の負担になっている。
- 仮設のカキ小屋2棟を常設化することで、維持管理コストを削減し、客席数を増やすことにより、利用者の増加を図る。また、直売所を併設することで輸送コストを削減し、出荷作業の負担軽減を図る。



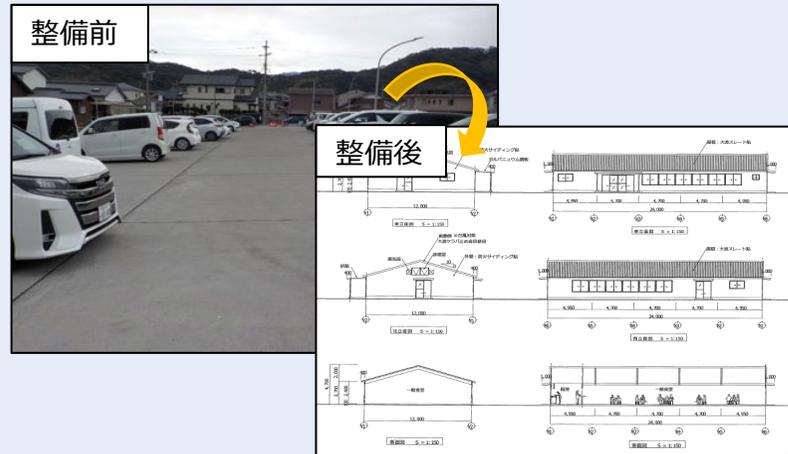
海業の取組概要



- 養殖したカキ等の水産物を漁港内のカキ小屋で提供



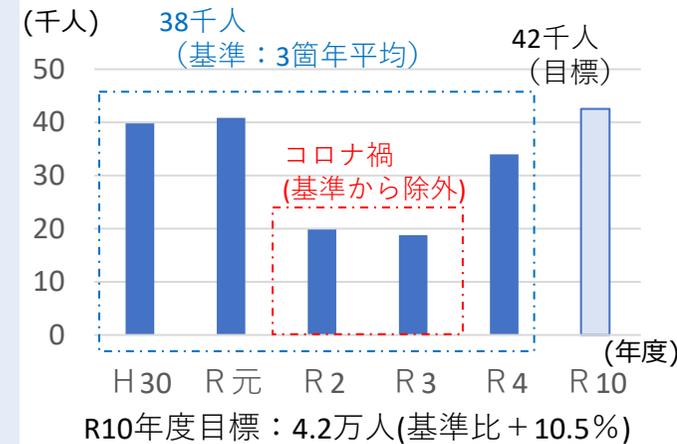
- 加布里漁港の仮設カキ小屋2棟を常設化
 - ・ 仮設ビニールハウスから鉄骨平家建てに変更
(事業主体：糸島漁業協同組合)



- カキ小屋常設化によるメリット
 - ・ 消費者に、より快適な空間でカキ等の新鮮な水産物を提供
 - ・ 仮設小屋の設置及び撤去に係るコスト削減
 - ・ 客席数を増やすことで利用者の増加及び地域の雇用創出に貢献
 - ・ 直売所の併設により輸送コスト削減及び出荷作業の負担軽減

効果

加布里漁港カキ小屋入込客数



協力体制

糸島漁業協同組合
福岡県水産振興課
糸島市水産林務課

スケジュール

R6年度：実施設計
R7年度：建築工事
R8年度：事業開始